

# 知っていますか？郷土の民話

## 天衣のない仁王さま

今月は東汗の満願寺のお話です。満願寺には町内で唯一平安時代の仏像（県指定文化財阿弥陀如来坐像・町指定文化財薬師三尊像）があるなど、町を代表する古刹の一つです。このようなことから、ここに係るお話がいくつも伝わっています。今回は町指定文化財の楼門に鎮座する、怖い顔をした仁王さまについての愉快なお話を紹介します。

昔々、宇都宮明神（現在の二荒山神社）は鹿島明神（現在の鹿島神宮）と威勢を競っていました。

鹿島明神には神池という立派な池があり、いつもきれいな水が溢れています。しかし宇都宮明神には池がないことから、宇都宮明神は鹿島明神がうらやましくて、ある日仁王二人を呼び、「お前たち鹿島へ行つて、池を盗んでこい」と命じました。仁王様は「これは大変なことになった。たった二人の力ではとてもできることではない」と思い、天下一の力持と噂の高い、汗（満願寺）の仁王様の手助けを借りることとなりました。汗の仁王様は承知して四人連れ立って鹿島へ向かって出発しました。途中、汗の仁王様は兄弟分の筑波（現在の筑波神社）の仁王様に「どこへ行くんじゃ」と呼び止められ、鹿島様の池を盗む話をしました。

# 郷土の民話

目指す鹿島明神にやってきて、四人が池の淵にそっと手をかけると、これも力自慢の鹿島の仁王様が「こらっ」と四人の池泥棒をとらえようとしました。長い時間に渡る乱闘の末、宇都宮明神の仁王様はとらえられ、汗の仁王様は命からがら追いつがる鹿島明神の仁王様の手を振り切つて逃げ帰りました。その時天衣を取られてしまいました。逃げたのがやつとでこれを取り返すことができなかつたことから、今も満願寺の仁王様の肩の上には天衣がありません。また、宇都宮明神の仁王様は、この時捕まつてしまったことから、宇都宮明神には仁王様がいなくなりました。そして、四人の帰りを待った筑波の仁王様は、鹿島明神の方を向き小手をかざして立っているとのこと。実は、汗の仁王様に関しては、もう一つのお話も伝わっています。筑波の仁王様と相撲をとって力比べをしたところ負けてしまい、天衣を取られてしまったとのこと。いずれにせよ、汗の仁王様が地元の人々に大事にされていたことを、このお話が物語っています。



満願寺の仁王様

# 広報川柳

岡島秀宝 選

国にまで老いの年金あてにされ

上蒲生

柳田智江

靴はいてまだ迷ってる服の色

石田

稲葉チイ

家族みな順に風邪引く次わたし

しらすぎ

稲見タカ

ガソリンが下がれば道路行き止まり

石田

柳田政孝

枝から枝小鳥可愛く鬼ごっこ

大町

大八木トク

介護する心に同居鬼心

石田

大島笑太郎

納得のいかぬ妥協へ胸をなで

上蒲生

菅沼マサ

夕焼けに明日の除草をすすめられ

石田

柳田キミ子

呆けるなど鏡が私をにらんでる

上蒲生

渡辺文子